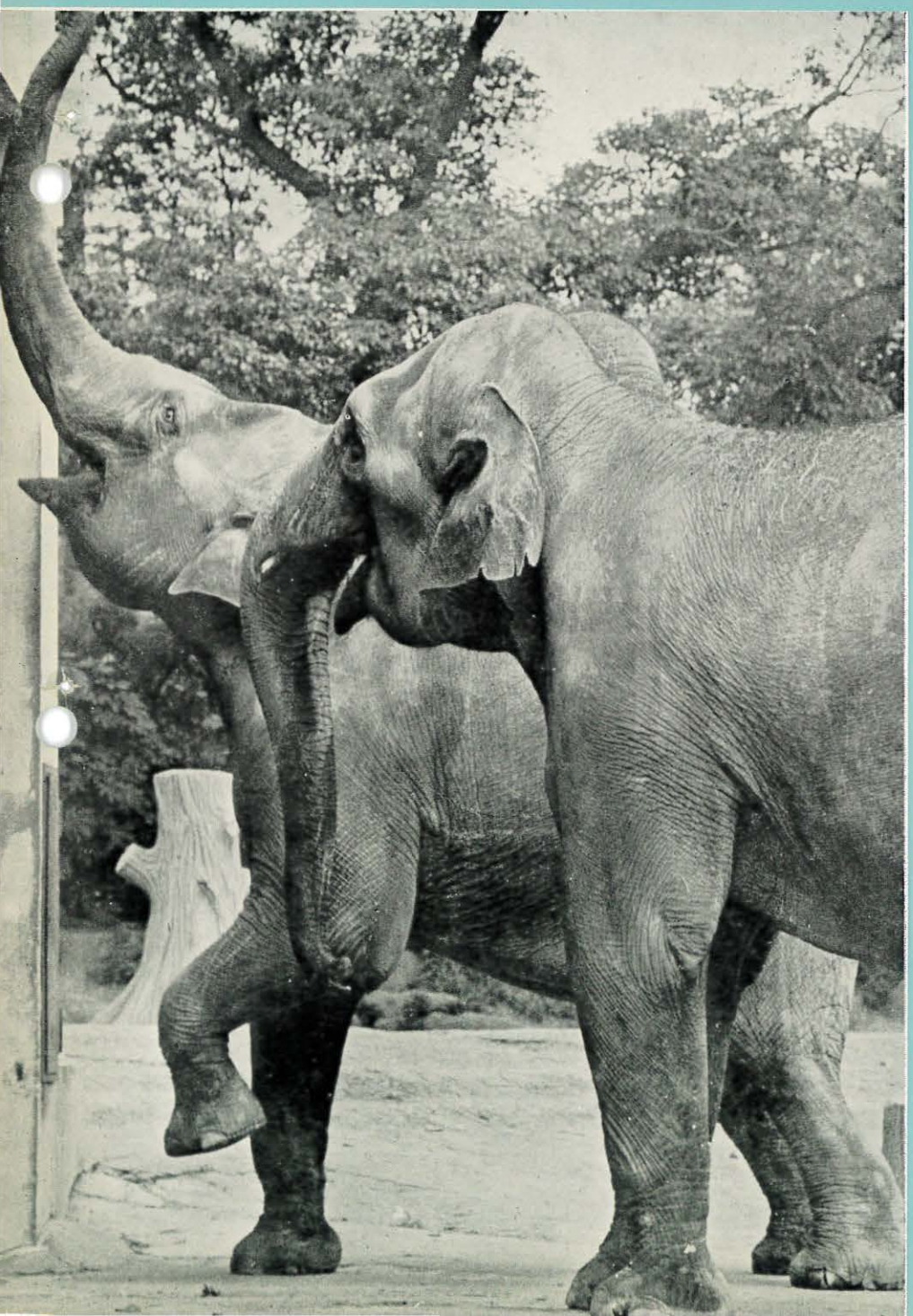
なきごえ



1966

7

大　阪　市
天王寺動物園

動物の紹介（第14回）

「はりねずみ」

はりねずみは、その名のように背中に細い針がたくさん密生し、一見亀の子たわしの感がするかわいい動物です。敵にあうと背中を丸めて針を突きたて、イガ栗のようになってしまうので、敵も簡単には攻撃できません。夜行性の動物で、昼の間は岩穴や、木の根の下に、草や木の葉で巣を造り、眠っていて夜になると出歩き昆虫類やかたつむり、卵を食べています。

はりねずみは食虫類の仲間で、もぐら、じねずみなども同じ仲間です。昨年暮れに入園したはりねずみ夫婦は、東南アジア産のもので、戦後初めてという珍客です。

動物園に来たときは、めすが体重600g、おすは450gで寒い日本への長旅で、かなり弱っていました。早速干草を敷きつめた暖かいへやに入れてやりました。毎日牛肉のミンチ、ミルクとむし卵を朝夕与えました。又試みに、ミミズや、今流行の九竜虫などを与えましたが、これらは食べませんでした。餌や飼育環境や温度などに注意して育てた苦労が実ったのか、その後どんどん体重が増加し、3月中旬には、めすが1,350gと入園時の2倍強に、おすも850gと2倍近く成長しました。そして3月18日には思いがけず4匹の赤ちゃんの誕生をみました。

はりねずみの出産は日本の動物園でも初めてですし、外国でもベルギーのアントワープ動物園、西ドイツのベルリン動物園、ニュージーランドのウエリントン動物園、イギリスのロンドン動物園など数少い報告しかありません。はりねずみの妊娠期間は、30日ですので、完全に動物園での繁殖といえましょう。赤ちゃんたちは、23gから32gまでの体重で目があいていないのですが、一人前にやゝ固い紫がかった針も生えています。よく動き回り、チッチッと乳房を求めてなくのが聞えました。母親が体をやゝ浮すようにしてやると、赤ちゃんたちはあお向けに首を突っ込んでチューチューと音をたてて、乳を飲んでいました。4日目には、目の部分が黒くなり背中の針もピンとして大分しっかりしてきました。まだへその緒をつけている赤ちゃんですのに、もうねこがフッフッと吹くようにして小さい針をたてて威嚇したりします。11日目にやっと目が開きました。余り見えるようでもなく灰色がかった鈍い目の光をしていました。背の針はずっと多くなり、まだらだった感じから密生して見えるようになってきました。

↑生後7日目の赤ちやんと母親

↑生後50日目

生後20日目には、親がするように完全に丸くなって防ぎょする術を覚えたようです。又親もそうですが赤ちやんでも、背中に干草をかぶったまま巣から出て来て歩き回り、餌を食べています。外敵の目をそらすためのカモフラージュのつもりかもしれません。

このはりねずみの赤ちやんは、おすが1匹でめすが3匹でしたが、このうちめすの1匹は生後30日あまりで、口の中に腫れものができて死にました

生後 100日あまりたった現在では、残りの3匹は親と同じくらいに大きく成長しています。

（樽本　勲）

なきごえ　7月号　もくじ

動物の紹介　はりねずみ……2
飼い方シリーズ……3
動物園グラフ……4．5
ペットを訪ねて……6
動物園ニュース……7

飼い方シリーズ（第12回）

シマリスの飼い方

動物園に来られたお子さんに「どの動物が面白かったですか」と尋ねますと、大抵象とかきりんだとか大きい動物に先ず興味を示すようです。

小学生ともなりますと、ライオンやトラというような勇ましい動物も好まれるようですが、それはそれとして大きな動物より小さくて可愛いい動作をする動物に、より興味を引かれる方が意外に多いようです。

その可愛いい動作が喜ばれ、ペットとして飼われている動物にシマリスがありますが、最近シマリスを飼われる方が非常に多くなりました。その現れとして動物園に、その飼い方や病気についての相談を、大変多く受けるようになりましたので今回はシマリスの飼い方についてご紹介します。

当園でも人工哺育して人なつこいシマリスができたことがありました。

又よく飼いならしますと、室の中で放し飼いしておいても、主人が帰って来ると何処からか飛び出して来て迎えてくれたりもしますが、あちこちをかじるので被害が大変です。

シマリスは4～5月頃にお産をしますから人おじしない若リスが、小鳥屋の店頭に売り出されるのは8～9月頃でしよう。これらは手乗りとして育てるのには最も適当です。

しかし親の場合でも、おどさないように気長に気を配って育てると馴れて来ます。雄雌飼う場合、相性がかなりあるようですから、あまり仲の悪いのは取り替えた方がよろしい。

大好物の飼は、クルミ、次にドングリです。穀類、甘藷、にんじん、リンゴ、ビスケット、パンにゆで卵の黄味などを時々与えて下さい。餌はすべて両手で持てるような大きさにしてやります。

巣は小鳥の巣をつるしてやって、巣の中は自分で造るように、真綿、くず毛糸、干草などの材料を入れてやって自分で造らせて下さい。

妊娠は雌のお腹が大きくなるので分かりますが、お産をすると今まで仲のよかった雄が巣に入れてもらえなくなるのが普通です。何かに驚いて巣に入ってけんかになることがあります。又せっかく巣から出て来るようになったこどもに、ヤキモチを焼いてかみつくこともありますから、雄用の巣を造ってやるか、当分別居させることです。

冬が近づくと野生のときの習性で、やたらと餌を巣に運んで越冬の準備をします。このため餌で巣が一杯になり、眠りにくくなります。このようなときには、時々巣を調べて眠りやすい巣にしてやって下さい。

運動が活発ですから、籠はできるだけ広いのがよいのですが、小鳥籠でも結構です。

木製は、かじって穴をあけますから必ず金属性のものを選び、遊び道具も忘れずに入れてやって下さい。

病気は余りしないのですが、お問い合せの病気の9割近くが、足が立たなくなってしまったというものです。これは運動の不足と室内で飼われる場合が多いので、日光浴の不足が主な原因のように思われます。

冬期でもガラス窓の日当りのよいところに出して、充分日光に当るように注意してやって下さい。

（松岡　恵爾）

表紙の写真説明

インドぞうインドぞうの春子さん（19才）百合子さん（18才）です。鼻を高くあげて何をおねだりしているのでしようか。

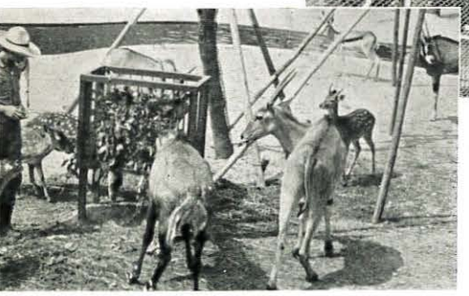
動物園グラフ

皆様のお目に余りふれない動物園の飼育係員の
一日のさまざまな姿をご紹介しましょう。

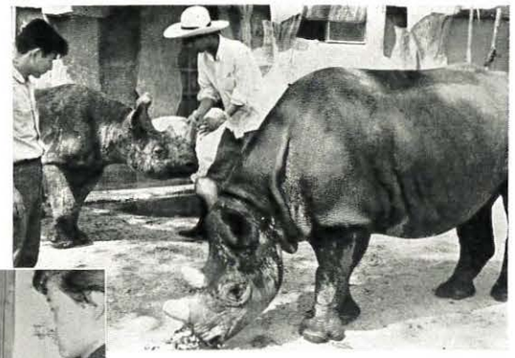
←朝の清掃
↓

↑
←動物たちの餌の調理

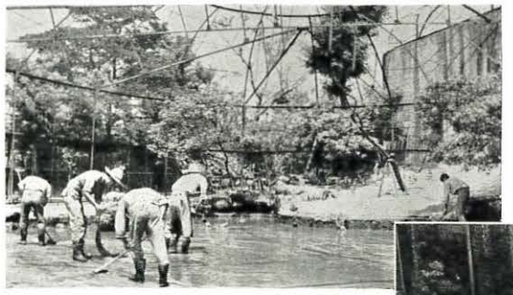
↑
← 給　餌



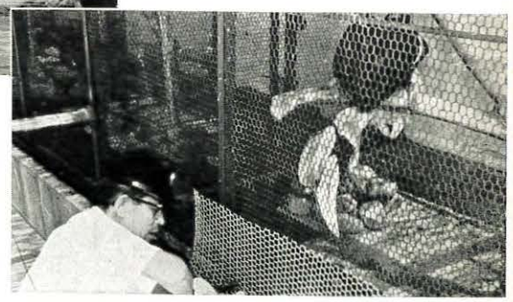
動物飼育は先ず →
動物たちと友だち
になることから
始まる



←電気ふ卵器によるきじ類のふ化育雛（すう）



動物舎の修繕 ↑ →



↑動物治療の補助もする（ライオンの手術）

↑チンパンジーの調教

↓ 入園動物の搬入

6月　動物園日記

1. 冷凍ペンギン舎のキングペンギンが、産卵し、特異のスタイルで抱卵を始めました。当園では始めてのことで一同期待しています。
2. ヨーロッパこうのとりのひな4羽のうちの1羽が、成長が遅れて餌が貰えないようですので、人工飼育をすることにしました。
3. 暑くなってきましたので、例年のめん羊の毛刈（散髪）を実施しました。
5. 今年のこぶはくちようの卵は、無精卵のようです。かわいいひなを今年は見ることができません。
8. スカンクが出産しましたが親が何かに驚いて子をかみ殺しました。此の次は巣を工面して成功させたいと考えています。
ライオンの牝親の16才が食欲不振になり、元気がなくなりました。キングペンギンの他の1羽が又、卵を産みました。2羽のペンギンが卵を抱いて仲良く向い合っています。
人工飼育していたこうのとりのひなが死亡しました。解剖したら大変な胃炎を起していました。
9. ペリカン3羽の羽切りを行ないました。
10. 療養中のあかげざる、本日全快、南園の猿こう舎に帰りました。
13. あしかの仔供が産れました。親が一生懸命に世話をしていますのでうまくいきそうです。
16. 1日から卵を抱いていたキングペンギンが、抱卵の交替をしました
18. アイスランドの野鴨の卵5種類20箇が到着しましたので、さっそくふ化器に入れました。ふ化が楽しみです。
19. あしかのお母さんが、仔供に泳ぎ方を教え始めました。
20. ピューマ、ひよう、くろひよう6頭に駆虫薬を与えました。
21. えぞしかの仔が産まれました。
22. 8日からの看病のかいあって、ライオン牡親も次第に良くなってきました。
23. 5/23日に産れたくろざるの仔供が、今日始めて一人歩きをしました。生後1ケ月目です。
24. 牝ライオンの眼に肉腫ができたので、手術をしました。麻薬で眠らせるまでが一苦労でした。
26. オリックスの牝、とびかもしか牡、牝2頭が入園しました。
今月はいろいろの鶉鶏（じゅんけい）類が、ふ化機から次々にふ化しております。現在までに、こうらいきじ40、おながきじ21、みやまはっかん30、にじきじ8、ほろほろちよう4、いんどくじやく16、しろくじやく2、日本きじ5、おじろこしあかきじ2、計124羽がふ化してピーピーとかわいい声を出しています。

ペットを訪ねて

住吉区西住之江町一丁目四番地

前田忠彦さん

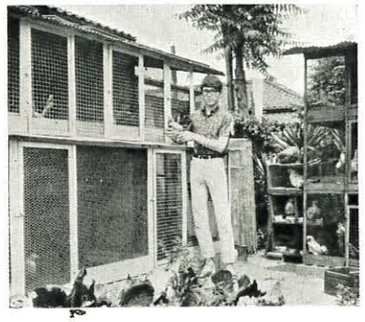
世の中が近代化し、自然の開発が進むにつれて自然界の動物たちは、衰亡の一路をたどっていく野鳥たちがめっきり少なくなってその保護対策が叫ばれている今日この頃、長い伝統と技術を誇る我国古来の「日本鶏」も又、私たちの目から消えようとしている。

今日は、その繁殖と新品種作りに情熱を傾けている若冠22才の青年、前田さんを訪ねた。本職は商業デザイナーで、鳥の飼育は勿論趣味。父親ゆずりの動物好きで、映画や人混みの場所は大嫌いという。父親から譲られたオナガドリ、東天紅、小国、比内鶏、ミリフリバンタム、シャモなどの「日本鶏」を飼育するうち、ただ飼うだけに飽き足らなくなって繁殖を始めるようになった。

現在、日本鶏のうち、16品種が天然記念物に指定され、このうち、オナガドリだけが特別天然記念物に指定されている。しかしこの伝統を受け継いでいる人々は比較的老人が多く、若い人が少ないので、前田さんは小学校に寄附して小学生たちに「日本鶏」の良さを認識させれば、将来かならずや愛好者が出てくれると確信して繁殖に精を出し始めた。巣立ったヒナたちは、各地の学校にもらわれ、卵をうんだ。元気で教材を務めているとの便りが各地から寄せられ、前田さんの夢は一歩一歩実現しつゝある。今年も早や、ヒナたちが20〜30羽育すう器の中で旅立ちを待っていました。一方今年は「金鈴波」の固定に懸命だ。戦前、この鳥が飼育された記録はあるが、今は数羽しかいないという稀種。銀鈴波とショウジョウを交配して作り出す訳だが、その縞模様の作出に苦労する。

縞作りに横斑プリマスロックを交配するが、やゝもすれば、体形が大きくなり過ぎ、チャボの原形を止めることができない。鳥に関するいろいろな本を買いあさり、或は遠く秋田、三重、四国の鶏友たちに意見を求めて知識を深める。

大阪にある日本鶏保存会の会員たちにも絶えず教



前田さんと巣箱

えを乞うて勉強する。が、専門書が少ないのが苦労の種で毎日毎日が未知の世界の開拓とのことでした。鳥たちは庭に建てられた立体的な禽舎に収容され、午前中はもっぱら、これら鳥たちの世話にかかりきり。飼料の配合や、病気の手当も自分でやる。室の中にはいろいろな鳥の本や薬の箱が並んでいました。現在、12種の日本鶏の他に、コリーが2頭ポメラニアン3頭、ヤマガラ、メジロ、ハツカンなどを飼育中で、お訪ねした日は、あいにくのドシャ降りで今年ふ化したヒナたちは、家の廊下まで占領していました。　（中川道朗）

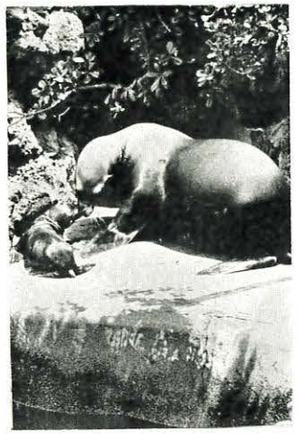
日本鶏23品種の内、天然記念物に指定されているもの16種及びその指定月日は次のとおりです。

1. オナガドリ（大正12.3.7）　特
2. 東天紅（昭和11.9.3）
3. 尾　　曳（昭和12.6.15）
4. ウズラ尾チャボ（昭和12.6.15）
5. 地　　鶏（昭和16.1.27）
6. 小　　国（昭和16.1.27）
7. 唐　　丸（昭和14.9.7）
8. 声　　良（昭和12.12.21）
9. チャボ（昭和16.6.18）
10. 比内鶏（昭和17.7.21）
11. 鳥骨鶏（昭和17.7.21）
12. サツマドリ（昭和18.2.23）
13. 地トツコ（昭和18.2.22）
14. 簑　　曳（昭和19.8.31）
15. シャモ（昭和6.1.27）
16. 河内奴（昭和17.7.21）

動物園ニュース

アシカの赤ちゃん誕生

6月13日朝方、アシカ池の穴岩でうぶ声をあげました「オギアー、オギアー、」と人間の赤ちゃんそっくりの泣き声をあげてお乳を飲んでいますが、ウブ湯がわりの池につかると早くも泳ぎのおけいこ。お母さんは北米海岸の産で（8歳）泳ぎの〝名人〟。母さんアシカの指導よろしきをえて、生まれて10日目頃には早くも〝アシカ流泳法〟をマスター。



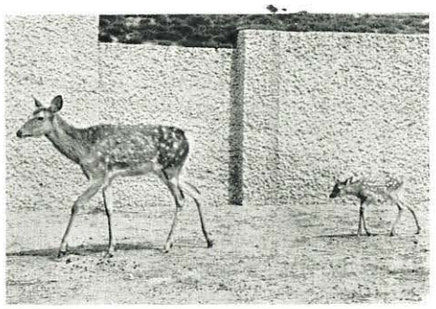
生後5日目の赤ちゃん

母さんアシカにくっついて池せましと、水しぶきを上げています。約10ケ月の哺乳期間を過ぎるとアジやサバを食べるようになります。去る 32年6月に次いで戦後2番目前回のときは、出産後4ケ月で母さんアシカが心臓マヒで死んだため育ちませんでした。今度こそはうまく育てようと好物のアジ、サバなどをたくさん与え、夏バテなどおこさないようにと係員も一生懸命です。

ライオンの眼瞼手術

ライオン一家のママライオンの眼の中に大きなデキモノ（角膜ブドウ腫）ができたので 6月25日切除手術をしました。これはネズミがネコの首に鈴をつけるぐらいの「難手術」。10人がかりでライオン放飼舎奥の動く鉄格子のある特別室に入れ、両側からその動く鉄格子でサンドイツチにして麻酔薬を射つ。ネンブタールという麻酔薬ですがその量がすごい。60cc。人間の場合は3ccで足りるからその20倍。さきほどまで肝をチヂマセルようなものすごいうなり声を発していた「百獣の王」も薬が効きだすと他愛いないもの。充分薬は効かしているつもりでも、そこは「百獣の王」のこと早くやるに越したことはない。ソレ！メスだ、薬だ、で切除手術は終了。「保定」から切除まで2時間の〝冷汗三斗劇〟もこれで無事幕。手術後の経過もよく、〝片目〟になりかかっていた母さんライオンもこれで元どおり〝両目〟でニラミをきかせるというわけ。

えぞしかオメデタ



アシカのオメデタに続いて、6月21日の昼下り、カモシカ園でエゾシカの赤ちゃん（オス）が産れました。両親はその名のとおり北海道（蝦夷）産まれで、内地のシカよりずっと大型で同居しているオリックス、エランドなど〝外国産まれ〟にひけをとらない〝偉丈夫〟。この赤ちゃんも産まれ落ちるとすぐに立ち上がるほどの元気良さ。産まれて3日目頃には、早くもママさんシカのオシリにくっついて広いカモシカ園を散歩しています。

北国から小鳥の卵

氷と白夜の国アイスランドから珍らしい水鳥の卵が伊丹空港に着きました。これは当園が鳥類研究家の仲田幸男氏を通じて依頼していたもので、この日着いたのはアイスランドやグリーランドの北極圏に近い、ツンドラ地帯に住む渡り鳥のキンクロハジロ、ホオジロガモ、スズガモ、ヨーロツパヒドリガモ、オカヨシガモの30個。早速、ふ卵機に入れて、かえるのをまつている。

欧米ではほとんどこの方法で鳥の種類をふやしているが国内では初めての試みで、うまくいけばわが国で減る一方の雷鳥の卵も輸入して増殖することができるので、その成果が注目されています。

昭和41年７月１日発行／毎月１回発行　なきごえ第14号／発行所　大阪市天王寺動物園協力会